

「ご当地ナンバー（第2弾）審査会」における主なやりとり

1. 日時 平成25年7月26日（金） 13:30～15:50
2. 場所 合同庁舎2号館1階低層棟共用会議室5
3. 要望元から資料に沿ったプレゼンテーション後の、審査委員からの質疑応答
(①世田谷、②川口、③盛岡、④平泉、⑤郡山、⑥前橋、⑦飛鳥、⑧杉並、⑨春日井、⑩越谷、⑪奄美)

①世田谷ナンバー

審査委員：

プレゼンで説明された3つに大別される効果をどのように評価するか。また、その効果の評価をどのように行うのか。

要望自治体：

活用方について区民にもいろいろアイデアを出していただきたい。地域内経済の軸間と交流都市との連携あるいはセーフティドライブなど新しいテーマがでてきている。これは是非、区民に参加していただくという方法でさらにメニューを豊富化していきたい。

審査委員：

地域振興、産業振興の部分で、世田谷ナンバーを導入することによって、さらにどういう具体的な観光振興、地域振興を考えているか。

要望自治体：

例えばこのナンバープレートをつけることによりマナーの向上、区民の意識の醸成、地域意識の醸成。産業界と産業界と縁のない町会自治体等と共有のテーマを持って、大きな今後の力となっていく。産業界だけではなく地域住民、区民との交流を図っていくことが、このナンバープレートを作ることによつての共有のテーマといったものが大きいと考えている。世田谷区のイベントには区外からも参加されている方も多く、区外の方にも同じようなマナーを提案していきたい。世田谷区の場合は、住宅地というイメージが非常に強いが、そこに産業を起こしていくということが重要だと思っており、これをきっかけに行っていきたい。

審査委員：

住民ニーズという観点について、アンケート等の結果を拝見すると、他と比べても賛成の割合が非常に多めに出ている。これは大変心強いことだと思うが、その反面、住民の一部の方がかなり強い反対を表明しているという報道がある。その上で地域住民の具体的なニーズという言葉に照らしてどのようにお考えであるか、東京都と世田谷区のお考えは。

要望自治体：

東京都より：世田谷区が実施されたアンケートの結果、あるいは3万名近くへのぼる賛成の署名。さらには51団体が加盟している世田谷ナンバーを実現する会の活動等に照らして、十分に住民ニーズはあると東京都は判断している。また、反対派の意見についても世田谷区がそれを受け止めた上で住民ニーズが高いということで申請

しているため、都としてはその世田谷区の判断を尊重したいと思っている。

世田谷区より：例えば住んでいるところが特定される。あるいはその世田谷区というと割と豊かなイメージなので危ないのでは、といった危惧の声もある。

ただ大きく時代は変わる時。品川ナンバーも確かに日本の中では、一番ブランドナンバーではあるが、人口90万人の自治体が自立して地域循環型経済、セーフティドライブ等の新しい価値創造をしていくということについては、区民の大方の理解を得られている。反対している区民の意見もこれからの展開の中で、聞きながら進めていきたい。

②川口ナンバー

審査委員：

観光振興において川口ナンバーを活用した方策の説明をお願いします。

要望自治体：

川口ナンバーを導入するだけで、もちろん人が集まるとは思っていないが、その一つのツールとして川口ナンバーを活用していければと思っている。

審査委員：

一つのツールとして活用される事で、新たな郷土愛が育成されるということ、今後どのように計っていくのか。

要望自治体：

導入後1、2年経った時に改めて市民アンケートをして市民がどのように評価しているか、検証をしていきたい。合併した新市が上手くいかない理由に、どうしても旧地域意識というものがある。それを川口ナンバーということで一つにまとめる事で、市民全体が川口という思いに集約をしていければと思っており、そういったことも導入後の検証として検証していきたいと思っている。

③盛岡ナンバー

審査委員：

知名度向上による対外的効果、交流人口の拡大等、また震災復興と明記されているが、こちらがご当地ナンバーを導入することによってどのようにこのような効果が発揮され、また、計っていこうと思いののか。

また、住民アンケートを拝見すると過半数ではあるものの、率直に申し上げて比較的あまり高くはないように感じるところだが、その点について今後どのような推移をたどるか、そのことについて何か証拠をお持ちなのかという点についてお伺いしたい。

要望自治体：

岩手は大変広い県で、エリアをなかなか絞り込めないため、県庁所在地である盛岡の発進力を高めていこうということ。盛岡に来られた方が盛岡を起点として全県に観光、経済活動等の様々な角度で展開される場合が多いため、その拠点としての地位の確立をしていく上でも知名度を向上していく必要があると思っている。それから地

域としては一体感の醸成に繋がっていくと思っている。全国に走る広告塔としては是非そういう効果をなせるように取り組んでいきたいと思っている。アンケート調査は、圧倒的というような数字にはなっていないが、今後とも一体感の醸成ということの意味合いからいって、この盛岡ナンバーの果たす役割を、継続的にPRしながら理解を深めていきたいと思っている。

審査委員：

具体的な取組みで盛岡ナンバーフォトコンテストという具体的な取組みがあったが、これをもっと詳しくご説明いただきたい。また、観光的には八幡平の方が知名度があるのではないかと思うが、そのあたりの議論はされたのか。

要望自治体：

フォトコンテスト、それから全国トラックキャンペーン等について、盛岡ナンバーを付けた車が全国各地で止まっていると、ナンバーと風景とかを写真等で撮って申し込んでいただき抽選で商品等をご用意させていただく。

また、トラック関係では、それを見た方に申し込んでいただくといったような、申込みの案内をトラック協会で行うことも計画しており、ホームページ等でこれらの事業を促進していきたいと思っております。

八幡平は盛岡・八幡平観光圏ということで日頃から一体となっている地域。盛岡を起点として八幡平に行かれる方が多く、生活圏も盛岡との繋がりが非常に強い。八幡平としては盛岡を拠点として活動される方々が多く、そういう意味では、徐々に理解が深まっていくのではないかと思っている。

審査委員：

アンケートの結果について、相対的に低い数字になっている。同じ県から出てきている、平泉は逆に他の地方自治体と比べて非常に高い数字がでていうことで、県から見てこの差をどう考えているか。

要望自治体：

平泉ナンバーは確かに住民の賛成割合は高い数字が出ている。これはそれぞれアンケートの取り方が若干両地域で異なった部分もあるとも思っているが、継続的に住民の方々にこのご当地ナンバーの制度、効果を説明しPRしていくという取組みをしながら理解を得ていくということが大事と考えている。

④平泉ナンバー

審査委員：

平泉については、長くに渡って活動されていて、かつ、原付のナンバーでも既に実施をされており、アンケートも高い賛成があつて地域にも根付いていると感じながら承ったところだが、であればこそ、その活用方策の効果を明確に示していくことが重要だと思う。走る広告塔として発信するというのは、誰をターゲットにこれを発信することで、どのような効果があると認識されてこれを提示いただいているのかということの因果関係について伺いたい。

要望自治体：

走る広告塔というのは、平泉ナンバーをつけた車が全国各地を走り回るとことを想定すれば、それは広告塔に十分なり得るが、岩手県の一地域の車両がそれほど遠隔地の方まで常時走り回るという状況はなかなか現実的ではない。まずは、地域内、その周辺地域、岩手県、宮城県、青森県、山形県、秋田県、その東北の北の方は、車を

利用しての交流が活発なので、そのエリアでまず平泉ナンバーというものを活用し、平泉を情報発信していきたい。そして、全国には車本体だけでなく、ネット上の効果というのも期待できると思っている。ネット等を使い、このご当地ナンバーというものをしっかり全国に情報発信していければと思っている。原付のナンバープレートも地域の住民を対象にして一般公募したデザインで、そういう形で常に住民との距離を近いところに置きながら、ご当地ナンバーというものを位置付けていければと思っている。

審査委員：

平泉は世界遺産なので、日本国内だけではなく観光的には世界に発信してもらいたいという期待も込めて、訪日外国人がまだ少し戻っていないということだが、このご当地ナンバーを機に、そういうところにも力を入れていきたいという発言もあったが、国際観光の面でどのように活かすつもりなのか、そのあたりを伺いたい。

要望自治体：

海外から来られる方々に対しての情報発信の仕方として、地域の名称に留まらずその地域全体を象徴するような平泉というものが車のナンバーにも刻み込まれているという所を海外の方々に強く情報発信できればなど思っている。海外に行くときよくナンバープレートがあって、そこに任意に取り付ける事ができる地域のPRプレートもあるが、こちらは本物のナンバーそのものに平泉という名前がついているという点を訴えていければと思っている。海外からの観光客も震災から2年数ヶ月が経過しており、まさに今までは復旧の方がウェイトが大きかったが、これから復興そして振興というふうに向けてステップアップしていこうと思っており、必ずや以前のような賑やかさを取り戻すというところを一緒になって地域全体で盛り上げていきたいと思っている。

審査委員：

質問というよりもこれからの要望ということで感想を申し上げたい。

ご当地ナンバーを導入することの狙いという点については、今日話しを伺って、そのとおりだと思う。平泉ナンバーに込めた思いを伺って大変印象深く聞かせていただいた。ただ、その平泉ナンバーを使って具体的にどうしているかという部分については、若干インパクトが薄いという気がしており、是非今のようなお話と絡めて、平泉ナンバーができた時にそれを使ってどういう行事を展開するとか、どういう新しい地域としての観光の目玉をつくりあげるとか、そういった事をお考えいただきたいと思っている。

要望自治体：

一番期待していることは、子供達が幼児のころから交通安全意識を図っていくというところに、平泉ナンバーが貢献できるかなと思っている。交通安全意識、交通マナーを小さい子供の内から身につけ、車社会の中で優しさを持った、そういう子供達が社会人になって、平泉という名のもとに世界遺産平泉が、子供達の代そしてそのさらに子供達の代まで末永く守っていくことができるのではと思っている。

⑤郡山ナンバー

審査委員：

福島県はOSSがまだ導入されていないということで、こちらの進捗状況はどうなっているのか。

また、観光施策についてとても重要な施策をされているようだが、それとご当地ナンバーがどう関連するのかという点について説明をいただきたい。

要望自治体：

ワンストップサービスの導入に関して、現在その導入に向け準備、作業を進めている。都道府県の協議会とともに準備作業を進め、今後そちらの進捗、システム等の進み具合にあわせて確実に導入に向けて参加を勧めたいと思っている。

実は来年が郡山市で 90 周年の年となる。ご当地郡山ナンバーをこれのシンボルイベントとして使わせていただきたいと思っている。あの車のナンバーの運転が乱暴だとかそういう一般論もあり、郡山は交通マナーもよく郡山ナンバーをとることが誇りだと言ってもらえるような都市作りのひとつのきっかけにしたいと思っている。

⑥前橋ナンバー

審査委員：

前橋ナンバーを活用してPRするとありますが、活用してPRするというところを、具体的にどのようにPRし、活用するのか。

要望自治体：

前橋ナンバーを使えばいろんな知名度が上がっていくのではと考えている。物流でトラックが来た、あるいは、道の駅や何かで観光で寄ってきたといったとき、どこのナンバーが来たよねと言った話しになった時に、今は前橋から出ていく物流のトラックなどは、群馬ナンバーとなっており、前橋ナンバーとして知名度の向上を図りたい。また、物流業界の方とコンテナのところに前橋ナンバー誕生とか入れていただくような、話しをできればいいとか、お願いできればいいですねといった話しはしているところ。

具体的な観光という点では、マイツアーというようなことで、前橋のMと吉岡のYで広域観光を設定したり、それを前橋というナンバーで売り出していくようなものも考えている。後はマラソンの設定について市、町を合わせて実施するというような事で県一体化の行政を図ることもやっているため、それを補完していくような流れではあるかと思う。来年4月にフルマラソンを前橋、吉岡を通る実行委員会を立ち上げており、そういうのに上手く前橋ナンバーを使い例えば先導車につけたりいろんな形で前橋ナンバーを使えるのではないかと思っている。

審査委員：

住民アンケートについて18年から7年近くかけてきた中で、賛成と答えている市民、町民の方が5割弱という状況をどのように認識されているか。

要望自治体：

どちらかという賛成を入れると66.6%の約7割方は賛成と言っている。住民の皆さんの賛同を十分に得られていると思っている。

⑦飛鳥ナンバー

審査委員：

導入基準の10万台に達しているかどうかなのですが、これについては先ほどのご説明として十分10万台を一定の時期までに超える見込みがある。または、そのために努力をするということか。そういうご説明と承ったが、

その事を確認させていただきたい。

要望自治体：

9月に向かって残りの6市町村について、しっかりと同意をとるように頑張っていきたい。

審査委員：

具体的な取り組みとしてこの活用方法について、こういう効果が飛鳥ナンバーで走る事によって出てくるという具体的な内容をお伺いしたい。

要望自治体：

関空から飛鳥の地域まで入ってくるまで、ちょうど1時間で入ってこられる。そこに車を通すことによって将来的には、外国から来られる方も飛鳥にむかって入ってきていただいて、そこで周遊観光していただくというような仕組みができあがってくると思っている。浪速から堺を通過して飛鳥に結んでいくという軸線を作ろうという話がある。大阪の方から飛鳥ナンバーに向かって流れていくという地域の売りを作っていきたいということも現在動きがあり、車の導線をつなぐという作業がなかなかできていないため、ご当地ナンバーが一つの引っ張る力になると思っている。

審査委員：

台数の問題で、まだ参加されていない市町村があるということだが、9月議会までの辺りで呼びかけをされると説明があったが、あくまで時間的な問題で今回間に合わなかったのか、間に合わなかった理由を明確に聞かせていただきたい。

また、飛鳥という漢字が飛ぶ鳥となっているが、もう一つ明日の香りの明日香村がそうだと思うが、この辺の位置付けは問題ないのか。飛ぶ鳥でいいのかという考えを聞かせていただきたい。

要望自治体：

飛鳥と明日香について、実は飛鳥も明日香も両方飛鳥時代から使われてきた言葉。飛鳥時代でいいますと飛ぶ鳥の飛鳥は広いエリアをイメージしている。昭和の大合併したときにいろんな事情があり、明日に香る明日香を使っており、これは行政区域としての明日香という区分けと考えている。

広域の消防の議論で37の議会が乱れに乱れたと言うことがあり、それによりこのご当地ナンバーの話がおいてきぼりになったというのが事実。広域の消防の議論は一つの区切りがついた。今度はご当地ナンバーに向かってということになれば、議会の承認も前回のようにおいてきぼりというようなことは、まずないと思っており、取り組んでいただけると確信している。

審査委員：

何度も説明いただいておりますが、10万台に達成する目途について、説明があったように9月の議会でだいたい賛同がとれて達成できるということか、あるいは9月の議会に向けて声をかけて今頑張っているが、現時点では分からないということなのか、どちらなのかご回答をお願いしたい。

要望自治体：

9月に向けて声をかけて頑張っている。

⑧杉並ナンバー

審査委員：

具体的な活用方策ということで、いくつか挙げていただき、これは確かに具体的で分かりやすく、大変積極的にご当地ナンバーとあわせた事柄として評価したいと思っているが、先ほどからお話になっている阿波踊りや七夕祭りが、ご当地ナンバーとどういう関係として考えているのか。

要望自治体：

象徴的なイベントとしてこの2つのお祭りを挙げさせていただいた。地域ごとに見ていけば100万人規模で人を集めるイベントがある。そのイベントが杉並区で行われていることをアピールすることによって、ナンバーから今度はイベントが想起され、「あのイベントがある杉並区ね」と、「じゃあ行ってみようか。」そして、そのイベントに参加したことによって杉並区の魅力を確認していただき、また他の所にも行ってみようかなというように繋がっていけば、非常に地域の活性化や経済の活性化にも繋がっていくと思っている。

審査委員：

映画、ドラマの撮影に杉並ナンバーの提供というのが非常におもしろいなと思った。杉並区は映画やドラマの誘致のフィルムコミッションという組織があり、活動を積極的に行われているということか。

要望自治体：

正式にフィルムコミッションが立ち上がっているわけではないが、現在、シティプロモーション間で検討をしている。産業振興センターというところで事務局を行っており、さらにそれを明確にしようと、専用サイト等の創設についても検討している。今後、ナンバーが認められれば、そういうことも取り込んだ形でサイトの構築とフィルムコミッションにも取り組んで行きたいと考えている。

⑨春日井ナンバー

審査委員：

他の地域から比べると観光的には知名度が低い地域かなと思うが、ご当地ナンバーを導入することで、どのくらいアップするのか。

要望自治体：

春日井市の中で観光客あるいは観光事業という位置付けがそう大きくないというのも事実。一般的な環境ではなく産業観光、企業もいろいろあり、そういうことも含めて観光事業を増進したい。さらに観光に力を入れようということ。また、書の町春日井というように専門的なことには非常に知名度がある。春日井ナンバーをアピールすることによって書の町春日井、あるいは一般的に書というものに親んでもらえるのではないのかと考えている。

⑩越谷ナンバー

審査委員：

資料に書いてある効果を発揮するために越谷としてはどのようないろいろな事を考えており、具体的にどんなプランがあるか。

要望自治体：

越谷は非常に知名度が低いと感じており、このナンバーを頂くことにより、全国的に知名度を上げていきたいということが第一であり、それに伴い市民がナンバーを頂くことによって、さらに越谷市に愛着を持って、あるいはふるさと意識をさらに高めることと、交通事故の防止にもなると考えている。

審査委員：

越谷レイクタウンに年間5000万人ということで、ディズニーランドを超える集客を誇るということだが、一方では知名度は低いと言われており、この5000万人の内訳とは近隣周辺の人が主となっており、あまり遠くからの集客はないのか。

要望自治体：

車のナンバー等を見てみると、関東一円から来ている。約1万4000台の駐車場もあるが、それもほとんど土、日、年末には満杯になってしまう。越谷ナンバーの車をこの駐車場に入れさせたいという願いがある。

⑪奄美ナンバー

審査委員：

住民アンケートについて平成22年に実施されたとのことですが、これからもう2年半経っており、状況としては変わっていないのか。また、先ほどご説明いただいた「認知から愛情へのフロー」と活用方策の関係について教えていただきたい。

要望自治体：

アンケートには22年に1回実施したところ。その時は66.4%でしたが、その後においても市長村町会、議長会においてもずっと要望を続けており、今も引き続き島民の思いだということで要望させていただいている。他の地域と違い、他の地域に認知をしていただくのは物理的には難しい。ただし、離島唯一のナンバー、全国唯一の離島ナンバーあるいわ全国で最小単位のナンバーと言うようなことも含め、郡当外から群島内にこられた方々については、奄美ナンバーが入っているということが分かってもらえる。

審査委員：

離島唯一のとか、観光的には唯一のとか、日本でただ一つのとかを売りになる事だと思うので、そこを全面的に活用していただければと思う。そもそも世界遺産、自然遺産の登録を目指されているため、それを是非絡めて活用方法も考えていただいていると思う。

質問というよりも要望ですが、今後の世界遺産の道筋の中でもし認められたらご当地ナンバーを活用していただければなという要望です。